

はじめに 小・中・高における住教育研究の成果が蓄積されてきているが、家政系女子短大あるいは現に生活している層へ向けての住教育についての議論が少いようである。幼いころから住まい方の問題に関心を抱かせることは大切であるが、今日のように住宅・都市問題に混乱が生じ、住様式にもゆがみが見られる現状では、実際に生活をしている層の教育も並行して行なっていく方がよい。生活主体者を育てる住教育の領域は、いくつかに分けられるが、今回は主として住宅事情・住宅問題に注目し、そのあり方を考えるために主婦層の意識を調査した。

方法 アンケート調査(留置法) 調査時期; 1983年2月 調査対象; F市  
近郊住宅地に居住する主婦 対象数; 200 回収数; 153 回収率; 76.5%

### 結果

- 1 主婦層の住生活への関心は女子短大生に比べれば高いが、日常生活の諸側面のなかではそれほど強い関心をもっているわけではない。
- 2 住生活の中では、住居衛生・住居管理・住宅計画などへの関心が高く、住宅政策などへの関心は低い。学校教育のなかで学んできたものの傾向を反映している。
- 3 住宅の問題は個人で解決すべきだと思っている人はそれほど多くはない。行政への期待は大きい。
- 4 行政に期待することは、住宅そのものの問題というよりは、環境整備・土地政策に関することが多い。